

# ちよつぷつ話

## 第五号 修羅

世の中は自分が居なくなったらさぞ困るだろうと思うものですが、豈に（あにはか）何事も無かったかの様に過ぎ去っていくものです。自分の力を過信している訳ではないのですが、思いこみと現実の違いが多いのです。過去に囚（とら）われ、現在の不満を漏らす者は未来をも嘆（なげ）く可能性が高くなると思います。

**今日を満足に生きてこそ**、明日も満足にすごせると思います。生活に満足感を味わうには自分にとって何が生きがいであるのか何の為にという信念が必要です。嫌々（いやがや）仕事をする方と、上手に仕事をする方とは心の負荷（ふか）が大きく違ってきます。我々の生活パターンはほとんどの方が同じ繰り返しであり、新鮮な味に欠けてしまうのは仕方の無い事です。逆にいえば同じ繰り返しで生活できることは人間として最高の仕合せではなからうかと思うのです。

毎度人間らしい生活をしましょうと言っていますが皆さん餓鬼（がき）の絵を見た事がございいますか。骨に皮が付いているのか、皮で骨を包んでいるのか、異様（いよう）にお腹だけがふくれ見るも無残な姿です。喉（のど）が極めて細く、食べ物をも十分取る事ができないからです。**腹は想像妊娠と同じで希望を叶えたいという気で膨（ふく）らんでいるだけなのです。**だから餓鬼に成ると常に空腹でイライラの精神状態が続いてしまうのです。実際我々も腹が減るとイライラしてきます。そして時には八つ当たりをするようになります。そうなるとう物事を正常に考える力が欠如してきます。餓鬼界に墮（お）ちると人間も全く同じような状態に陥（おち）るのだと思います。佛教では六道の教えがあります。私は六道を見聞していませんが、先人の書かれたものを見て娑婆（しゃば）世界と照らし合わせれば何となく理解できそうな気がします。

人間は利害関係に生きていると思っっています。例えば平和論を唱える方が見えるとします。それは平和に成ることが皆無に近（ちか）いから私は成り立つと思っっています。現実（じゆんじつ）に平和であればわざわざ唱える必要がないからです。しかしながら世界の何処（どこ）かで修羅場（しゆらば）があり、常に何処（どこ）かで地獄（じごく）があり、餓鬼（がき）がおり、修羅（しゆら）が活躍（かくやく）し、六道の地位から脱（だ）する事が非常に難しいのです。**六道が存在する限り、夢と現実（じゆんじつ）はかけ離（はな）れています。**格

差（さ）を是（ぜ）正（せい）しようと閻（えん）僚（りょう）も叫（な）びますが我々は生まれた時から地位の格差（かくさ）があります。この問題（もんだい）も提唱（ていしょう）することは簡単（かんたん）ですが解決（かいげつ）するには無理（むり）があると思っっています。御存（ごぞん）じの如（ごと）く榮枯（えいこ）盛衰（せいすい）は世（よ）のならいなのです。**しかしながら信仰（しんぎょう）は違（ちが）います。**お釈迦（しやくか）様の時

**代（だい）から現在（げんざい）に至（いた）っても地位（ちゐ）に関係（かんけい）なく皆（みな）平等（びんどう）であるからです。**お彼岸（ひがん）がきます。私達（わたし）は先祖（せんぞ）からの血統（けつとう）を変えることはできません。先祖（せんぞ）の供養（くやう）をして自分の生きざまを先祖（せんぞ）の方（かた）々（々）にお見（み）せしましょう。喜（よろこ）ばれるように。**血縁（けつえん）のある方（かた）は皆（みな）大事（だいじ）なのです。**

二十四年九月一日

善壽界善入院油掛地藏尊